

一大内萩草毛彫火鉢

一、時代蒔絵柄火はし □

腰掛

蛇籠手炉

一、象牙柄火はし □

初座團 四畳半

一、一休自画賛 玉舟外題

一、いぢり、塗炉縁 道恵

一、中阿弥陀堂釜 与次郎

一、ひる鑑 徳元

一、ふくへ内はりなし、辰年自盆打

一、桑柄火はし 古作

祥瑞六角支干染付香合 無銘

一、青鷲掛羽箒 箱書 宗甫

灰ほうろく 新柳川

一、灰七 桑柄 古作

水次大内菊唐草毛彫

一、青竹わ

いぢりち塗
漆の表面に極
細の波紋を
付ける手法。
近藤道志の
発明。道志は
石州・遠州の
茶器を多く
作る。

伊織家文書
「新発田道具
帳」に「上品
御秘蔵 中
阿弥陀堂釜
与次郎作」が
ある。

御口切茶之湯並夜会⑤

懐石

一角不切折敷 宗哲

うるみ塗椀 道志

向付世縁 軋山

飯次椀 同作一組之内

盃臺 染付 横銘

盃椀 同作一組之内

あこた銚子

かまほこ入 古ミしま平鉢

吸物椀 銀智好

取の□□ 崩三宝

湯盆 黒ぬり 脇引盆 道恵

青じ雪わ鉢

湯次椀 同作一組之内

香合水入 宗伯焼

水次もふる

口執盆 沈金

再進入 鎌倉彫

後座 信楽うつくまる花入

懐石

一、角不切折敷 宗哲

一、うるみ塗椀 道志

一、向付 笹絵 軋山

一、飯次椀 同作一組之内

一、盃臺 染付 横銘

一、盃椀 同作一組之内

あこた銚子
かまほこ入 古ミしま平鉢

一、吸物椀 銀智好

紹智であれば、茶道敷ノ内流の初祖

一、取の□□ 崩三宝

一、湯盆 黒ぬり 脇引盆 道恵

一、青じ雪わ鉢

一、湯次椀 同作一組之内
一、香合水入 宗伯焼

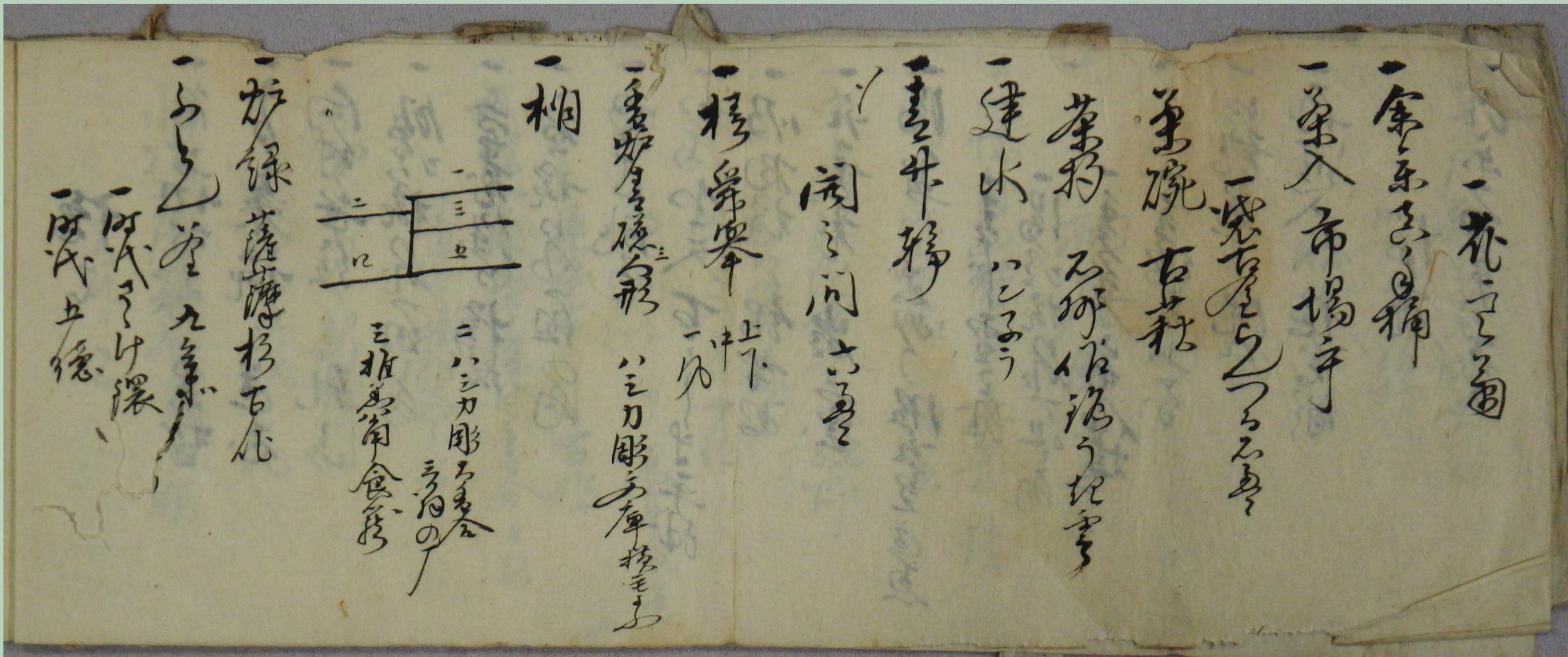
一、水次もふる

一、口執盆 沈金

一、再進入 鎌倉彫

後座

一、信楽うつくまる花入



一、花白ら菊カ

一、余樂真 手桶

一、茶入 市場手

一、袋 古金らんつる石畳

茶碗 古萩

茶杓 石洲作銘うき雲

一、建水 ハン子ら

一、青竹輪か

開之間 六疊ひらき

一、榎舜舉銭か 上下中

一風

一、香炉 青磁三人形 ハシカ彫文庫横もよふ

一、棚

二、ハシカ彫大香合

三、椎黒八角食籠じきろう

一、炉縁 薩摩杉 古作

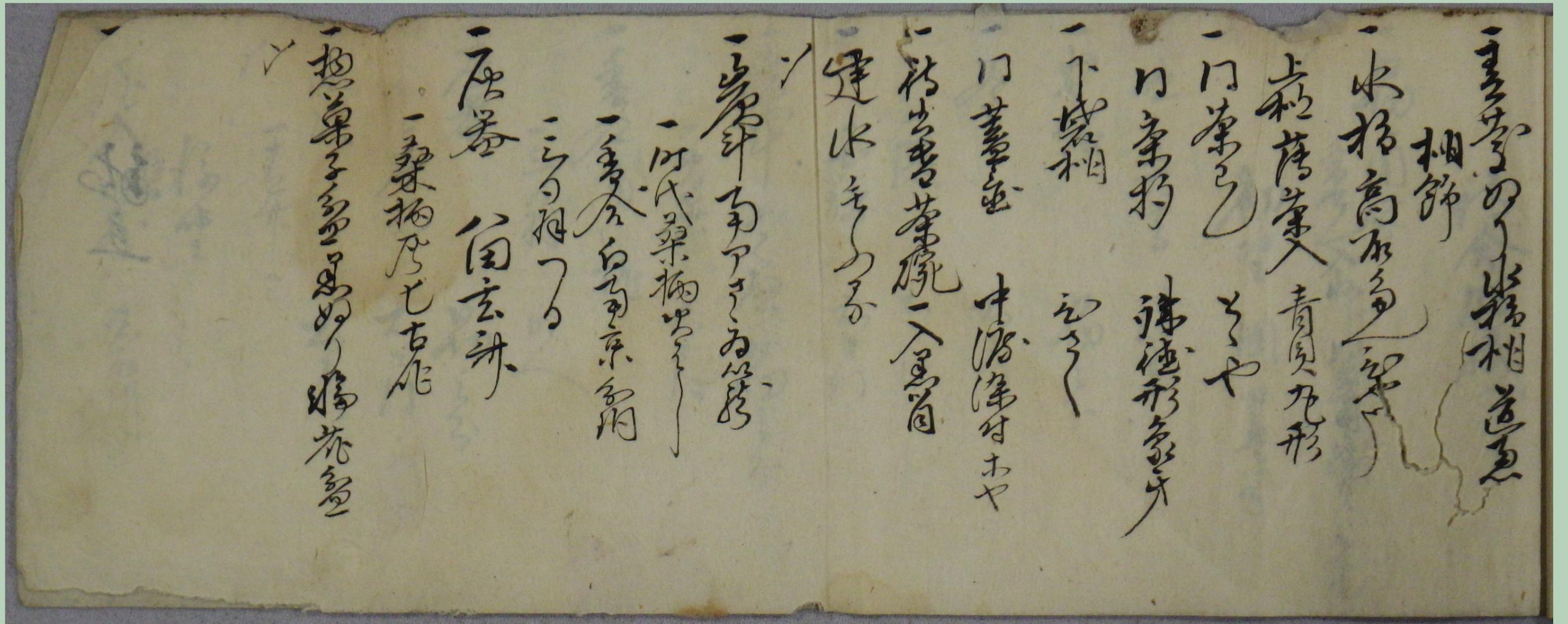
一、ふとん釜 九兵衛

一、時代ささげ鏡

一、時代五徳

新発田御道具帳に作州公造銘「浮雲」とある。本例は共筒に「うき雲 作州公石」の墨書があることから、作州公（宇喜多秀家）作で筒の墨書は石州による（宮武慶之二〇一四「新発田御道具帳にみる溝口家旧蔵の茶道具」『文化財情報御学』第九巻）

銭選（字が舜舉）宋末から元初の文人画家・篆刻家



一、春慶ぬり水指棚 道恵
棚飾

一、水指高取たんひやう

上杉薄茶入 青貝丸形

一、同茶わん とよや

同茶杓 珠徳形象牙

一、下袋棚 ひさく

一、同蓋置 中渡染付ホヤ

一、持出替茶碗 一入黒筒

一、建水毛ふる

一、炭斗 南部さゝる籠

一、時代桑柄火はし

一、香合 白南京分銅

一、三ツ羽つる

一、灰器 八田玄斎

一、桑柄灰七古作

一、惣菓子盆 黒ぬり輪花盆

新発田御道具帳
に高取単瓢水指
あり

ホヤは、火舎形の
蓋置

一入は、樂四
代。御道具帳に
一入の黒茶碗が
二点あり

八田玄斎は天正
期の茶器焙烙職
人